

# 尋常小學唱歌 伴奏樂譜における一考察

國枝春恵・山崎浩隆

## A Study of the Accompaniment Scores in *Jinjo Shougaku Shouka*

Harue KUNIEDA and Hirotaka YAMASAKI

(Received October 1, 2013)

From the late Meiji until the beginning of the Taisho era, the collection of songs known as *Jinjo Shougaku Shouka* (Primary School Songs) had accompaniment scores for the organ, written by *Naoaki Fukui* and supervised by *Akataro Shimazaki*. It seems that it was made under the influence of hymns that were introduced by Christian missionaries and based on the music theory that was taught by the employed foreign teachers at the Tokyo Ongaku Gakkou. The Ministry of Education was in charge of the committee of the editorial department in those days. In the beginning of the Showa era, the *Shin-Tei Jinjo Shougaku Shouka* (New Revised Primary School Songs) greatly changed the accompaniment scores. This short paper investigates and analyzes the differences of the accompaniment scores between the first version accompaniments and the revised version.

**Key words :** Primary school songs, Accompaniment scores, Akataro Shimazaki.

### はじめに

明治44年から大正3年にかけて発行された、後に文部省唱歌と呼ばれるようになった『尋常小學唱歌』は、文部省に設置された小學唱歌教科書編纂委員会の合議で作られ、各曲の作詞者作曲者は匿名とされていた。編纂委員は以下の通りである。<sup>1)</sup> 作詞委員 委員長 芳賀矢一 委員 上田万年 尾上八郎 高野辰之 武島又次郎 八波則吉 佐々木信綱 吉丸一昌 / 作曲委員 委員長 湯原元一 委員 上眞行 小山作之助 島崎赤太郎 楠美恩三郎 田村虎蔵 岡野貞一 南能衛。

東京藝術大学百年史<sup>2)</sup>によると、第2回委員会では、「1 國定讀本第9卷ノ歌詞提出」という記述があり、まず作曲すべき歌詞を選定していった様子が見える。明治42年7月7日には、「小學唱歌作曲要件として、各学年の曲数、音程、音域、拍子の種類、調子、口調（リズム）」の詳細が決定されている。その後の委員会において、「下ノ歌詞及樂曲ヲ審査修正ス」等の記述が見られる。しかしながら、作品の作詞者作曲者を特定することは難しい。

文部省著作尋常小學唱歌には、ほぼ同時期、明治44年4月から大正2年7月に、『尋常小學唱歌 伴奏樂譜 歌詞評釋』福井直秋著、島崎赤太郎閱が、共益

商社書店より刊行されている。歌詞評釋は、吉丸一昌閱によっている。この伴奏樂譜は、福井直秋が書いたものであるが、校閲者が、文部省小學唱歌教科書編纂委員の作詞主任吉丸一昌、作曲主任島崎赤太郎<sup>3)</sup>であることから、文部省の意向に即した尋常小學唱歌伴奏樂譜と認識できる。

尋常小學唱歌は、その後大正時代を経て、昭和6年から昭和7年に大幅に編纂改訂が行われ、『新訂尋常小學唱歌』が刊行された。編纂作曲委員も交代しており、委員長 島崎赤太郎の他 信時潔 下総銃一 片山穎太郎等がいる。<sup>4)</sup> 編纂曲も相当な変化があり、同じ唱歌であっても伴奏樂譜に顕著な差異が見られるが、これらについても、自筆樂譜が見つかっておらず、作曲者を特定することが困難であると言われている。<sup>5)</sup>

本稿では、福井直秋著の『尋常小學唱歌 伴奏樂譜 歌詞評釋』と『新訂尋常小學唱歌』の伴奏部分の違いを検証し、分析を行う。そして、現在歌い継がれている文部省唱歌に、新たな伴奏樂譜を作成する際の留意点等を、考察するものである。

### 大正、昭和初期の小學唱歌集出版について

明治後半期には、多くの唱歌集が刊行されたが、大

正時代、昭和時代初期は、北原白秋等による童謡運動<sup>6)</sup>の影響により、唱歌編纂事業は少なくなっている。下記に、『日本教科書大系』から、この時期の一覧を示す。

[表1]

1	嗚呼 乃木大将	大正2	森山保 東京府教育會
2	福岡市地理唱歌	大正2	福岡市教育會
3	明治のみかど	大正2	土方久元 田村虎藏 益山鎌吾
4	かちどき	大正3	小山作之助
5	膠州湾	大正3	吉野作太郎
6	少国民の歌	大正3	梁田晴嵐
7	新曲征獨軍歌 拳国一致	大正3	河口鐵次郎 小島定幸 粟津重
8	拔萃 高等小學唱歌	大正3	大橋銅造 納所辨次郎 田村虎藏
9	青島占領祝捷歌	大正4	葛原幽 山田源一郎
10	大正幼年唱歌	大正4	小松耕輔 梁田貞 葛原幽
11	小學歴史唱歌	大正5	傳田治朗
12	新作小學唱歌	大正5	吉丸一昌
13	立太子禮奉祝歌	大正5	諸星寅一 小松耕輔
14	赤い鳥童謡	大正8	鈴木三重吉
15	尋常小學唱歌	大正9	山本壽
16	國定 小學新讀本唱歌集	大正14	黒澤隆朝
17	小學新唱歌	大正15 昭和元	町田櫻國
18	大正小學唱歌	昭和2	福井直秋
19	新定尋常小學唱歌	昭和2	共益商社書店編纂部
20	新尋常小學唱歌	昭和6	日本教音音楽協會
21	新作昭和少年唱歌	昭和7	小松耕輔 梁田貞 葛原幽
22	新作昭和幼年唱歌	昭和7	小松耕輔等
23	小學新唱歌	昭和8	日本音楽研究會

#### 『伴奏楽譜 歌詞評釋』著者 校閲者について

『尋常小學唱歌』作詞委員主任の吉丸一昌は、明治6年9月15日現大分市白杵市に生まれ、熊本第五高等学校より東京帝国大学国語科へ進み、卒業後、明治

41年35歳で東京音楽学校教授、翌42年に文部省小學校唱歌教科書編纂委員となった。

作曲委員主任であった島崎赤太郎は、明治7年7月9日東京築地で生まれ、クリスチャンである。東京音楽学校を卒業後、明治35年、文部省給費研究員としてドイツ、ライプツィヒ王立音楽院へ留学、明治39年に帰国し、東京音楽学校教授になった俊英である。<sup>7)</sup>

さて、著者の福井直秋は、明治10年10月17日富山県越中国に生まれ、富山県師範学校から東京音楽学校甲種師範科に進む。卒業後、富山師範学校、長野師範学校の教員をしながら、恩師島崎赤太郎校閲の『初等和聲學』を執筆し、明治41年4月共益商社書店より出版する。明治44年、東京府立第三中学校に赴任し、『尋常小學唱歌伴奏楽譜 歌詞評釋』を刊行する。福井は、それから夥しい数に著作を残しながら、武蔵野音楽学校建学の道へ進む。<sup>8)</sup> 福井直秋は、島崎赤太郎教授の薫陶を受けて、音楽理論の著書を刊行していったようである。

明治21年から27年まで、東京音楽学校では、お雇い外国人教師ルドルフ・ディトリヒが、ウィーンから就任し、ヴァイオリン、和声学、作曲法、唱歌の授業等を担当した。ディトリヒは、幸田延、島崎赤太郎等、多くの音楽家を育成した。<sup>9)</sup> 日露戦争開戦と共に帰国したが、明治32年6月、ディトリヒによる編曲集『小學唱歌集用 オルガン ピアノ楽譜』が、東京音楽学校から発行、編纂されている。

#### 『尋常小學唱歌』及び『新訂尋常小學唱歌』掲載曲目について

『尋常小學唱歌』と『新訂尋常小學唱歌』の掲載曲目を、下記に示す。現在も文部省歌唱共通教材として歌われている作品を、色分けしている。この13曲の伴奏楽譜について分析を試みる。

[表2]

## 尋常小學唱歌 掲載曲一覧

第一学年	1. 日の丸の旗
	2. 鳩
	3. おきやがりこぼし
	4. 人形
	5. ひよこ
	6. かたつむり
	7. 牛若丸
	8. 夕立
	9. 桃太郎
	10. 朝顔
	11. 池の鯉
	12. 親の恩
	13. 烏
	14. 菊の花
	15. 月
	16. 木の葉
	17. 兎
	18. 紙鳶の歌
	19. 犬
	20. 花咲爺

第四学年	1. 春の小川
	2. 桜井のわかれ
	3. ゐなかの四季
	4. 靖国神社
	5. 蚕
	6. 藤の花
	7. 曾我兄弟
	8. 家の紋
	9. 雲
	10. 漁船
	11. 何事も精神
	12. 広瀬中佐
	13. たけがり
	14. 霜
	15. 八幡太郎
	16. 村の鍛冶屋
	17. 雪合戦
	18. 近江八景
	19. つとめてやまず
	20. 橘中佐

第二学年	1. 桜
	2. 二宮金次郎
	3. よく学びよく遊べ
	4. 雲雀
	5. 小馬#
	6. 田植
	7. 雨
	8. 蟬
	9. 蛙と蜘蛛
	10. 浦島太郎
	11. 案山子
	12. 富士山
	13. 仁田四郎
	14. 紅葉
	15. 天皇陛下
	16. 時計の歌
	17. 雪
	18. 梅に鶯
	19. 母の心
	20. 那須与一

第五学年	みがかずば
	金剛石 水は器
	1. 八岐の大蛇
	2. 舞へや歌へや
	3. 鯉のぼり
	4. 運動会の歌
	5. 加藤清正
	6. 海
	7. 納涼
	8. 忍耐
	9. 鳥と花
	10. 菅公
	11. 三才女
	12. 日光山
	13. 冬景色
	14. 入営を送る
	15. 水師營の会見
	16. 斎藤実盛
	17. 朝の歌
	18. 大塔宮
19. 卒業生を送る歌	

第三学年	1. 春が来た
	2. かがやく光
	3. 茶摘
	4. 青葉
	5. 友だち
	6. 汽車
	7. 虹
	8. 虫のこゑ
	9. 村祭
	10. 鶉越
	11. 日本の国
	12. 雁
	13. 取入れ
	14. 豊臣秀吉
	15. 皇后陛下
	16. 冬の夜
	17. 川中島
	18. おもひやり
	19. 港
	20. かぞへ歌

第六学年	1. 明治天皇御製
	2. 児島高德
	3. 朧月夜
	4. 我は海の子
	5. 故郷
	6. 出征兵士
	7. 蓮池
	8. 燈台
	9. 秋
	10. 開校記念日
	11. 同胞すべて六千万
	12. 四季の雨
	13. 日本海海戦
	14. 鎌倉
	15. 新年
	16. 国産の歌
	17. 夜の梅
	18. 天照大神
	19. 卒業の歌

## 新訂尋常小學唱歌

## 掲載曲一覧

第一学年	1. 日の丸の旗
	2. 鳩
	3. 兵隊さん
	4. おきやがりこぼし
	5. 電車ごっこ
	6. 人形
	7. ひよこ
	8. 砂遊び
	9. かたつむり
	10. 牛若丸
	11. 朝顔
	12. 夕立
	13. 桃太郎
	14. 僕の弟
	15. 池の鯉
	16. 親の恩
	17. 一番星みつけた
	18. 烏
	19. 菊の花
	20. 月
	21. 木の葉
	22. つみ木
	23. 兎
	24. 雪達磨
	25. 紙鳶の歌
	26. 犬
	27. 花咲爺

第四学年	1. 春の小川
	2. かげろふ
	3. ゐなかの四季
	4. 靖国神社
	5. 蚕
	6. 五月
	7. 藤の花
	8. 動物園
	9. お手玉
	10. 曾我兄弟
	11. 夢
	12. 雲
	13. 漁船
	14. 夏の月
	15. 牧場の朝
	16. 水車
	17. 広瀬中佐
	18. たけがり
	19. 山雀
	20. 霜
	21. 八幡太郎
	22. 村の鍛冶屋
	23. 餅つき
	24. 雪合戦
	25. 近江八景
	26. 何事も精神
	27. 橘中佐

第二学年	1. 桜
	2. ラヂオ
	3. 二宮金次郎
	4. 雲雀
	5. 折紙
	6. 小馬
	7. 田植
	8. 竹の子
	9. 雨
	10. 金魚
	11. 蟬
	12. 蛙と蜘蛛
	13. こだま
	14. 浦島太郎
	15. ポプラ
	16. かけっこ
	17. 案山子
	18. がん
	19. 富士山
	20. 影法師
	21. 紅葉
	22. 時計の歌
	23. うちの子ねこ
	24. 雪
	25. 梅に鶯
	26. 母の心
	27. 那須与一

第五学年	1. みがかずば
	2. 金剛石・水は器
	3. 八岐の大蛇
	4. 舞へや歌へや
	5. 鯉のぼり
	6. 菅公
	7. 忍耐
	8. 朝日は昇りぬ
	9. 朝の歌
	10. 日光山
	11. 山に登りて
	12. 海
	13. 納涼
	14. 風鈴
	15. 加藤清正
	16. 鳥と花
	17. 大塔宮
	18. 秋の山
	19. いてふ
	20. 入営を送る
	21. 冬景色
	22. 水師營の会見
	23. 児島高德
	24. 三才女
	25. 進水式
	26. 雛祭
	27. 卒業生を送る歌

第三学年	1. 春が来た
	2. かがやく光
	3. 摘草
	4. 木の芽
	5. 茶摘
	6. 青葉
	7. 蛩
	8. 汽車
	9. 燕
	10. 虹
	11. 夏休
	12. 波
	13. 噴水
	14. 虫のこゑ
	15. 村祭
	16. 鶉越
	17. 雁がわたる
	18. 赤とんぼ
	19. 取入れ
	20. 麦まき
	21. 日本の国
	22. 飛行機
	23. 豊臣秀吉
	24. 冬の夜
	25. 川中島
	26. 私のうち
	27. かぞへ歌

第六学年	1. 明治天皇御製
	2. 朧月夜
	3. 遠足
	4. 我等の村
	5. 瀬戸内海
	6. 四季の雨
	7. 日本海海戦
	8. 我は海の子
	9. 日本三景
	10. 風
	11. 蓮池
	12. 森の歌
	13. 瀧
	14. 出征兵士
	15. 故郷
	16. 秋
	17. 燈台
	18. 天照大神
	19. 鶯
	20. 鎌倉
	21. 霧
	22. 鳴門
	23. 雪
	24. スキーの歌
	25. 夜の海
	26. 斎藤実盛
	27. 卒業の歌

『尋常小學唱歌』及び『新訂尋常小學唱歌』の伴奏形について

尋常小學唱歌と新訂尋常小學唱歌の伴奏形の差異が著しかった7曲について、冒頭4小節を掲載する。

[楽譜 1]

尋常小學唱歌

かたつむり

新訂尋常小學唱歌

かたつむり

J-1022

ニゴロゴロカキハキハキカキハキ  
ニヤンヤンシシシカキハキ

[楽譜 2]

尋常小學唱歌

紅葉

新訂尋常小學唱歌

紅葉

J-1023

ニセニの葉が赤に  
ニセニの葉が赤に

[楽譜 3]

尋常小學唱歌

春が来た

新訂尋常小學唱歌

春が来た

J-1024

ニハナハナカキハキハキ  
ニハナハナカキハキハキ  
ニハナハナカキハキハキ

[楽譜 4]

尋常小學唱歌

茶摘

新訂尋常小學唱歌

茶摘

J-1025

ニハナハナカキハキハキ  
ニハナハナカキハキハキ

[楽譜 5]

尋常小學唱歌

蟲のこゑ



新訂尋常小學唱歌

蟲のこゑ



[楽譜 6]

尋常小學唱歌

春の小川



新訂尋常小學唱歌

春の小川



[楽譜 7]

尋常小學唱歌

我は海の子



新訂尋常小學唱歌

我は海の子



『尋常小學唱歌』及び『新訂尋常小學唱歌』の和声分析について

次に、尋常小學唱歌と新訂尋常小學唱歌 13 曲の和声分析一覧表を示す。<sup>10)</sup>

[表 3]

第一學年「日の丸の旗」 尋常小學唱歌	4分2拍子へ長調 I - V V <sup>1</sup> I - V I - F - IV - I IV IV <sup>1</sup> I V <sup>1</sup> I - V I F I F III III <sup>1</sup> I
新訂尋常小學唱歌	4分2拍へ長調 I - V - I F V I - F I IV IV <sup>1</sup> I IV <sup>1</sup> IV F V I - V V <sup>1</sup> V I F III III <sup>1</sup> I
「かたつむり」 尋常小學唱歌	4分2拍子ニ長調 [I - V I V I] V - I IV <sup>1</sup> FV F I V - I VI I F I - F F - V <sub>7</sub> I -
新訂尋常小學唱歌	4分2拍子ニ長調 I - F - V I - (V <sup>1</sup> ) F V - , [I - IV <sup>2</sup> I -] V - I I - I - F F V I -
第二學年「富士山」 尋常小學唱歌	4分4拍子ニ長調 I IV <sup>2</sup> I - F I V V <sup>1</sup> V I - F IV - F - V <sub>7</sub> I V - V <sup>1</sup> F I F IV - I VIVIV <sup>1</sup> I - IV <sup>1</sup> II <sup>1</sup> FV <sub>7</sub> - I -
新訂尋常小學唱歌	4分4拍子ニ長調 I IV <sup>2</sup> I - F I V (V <sup>1</sup> ) I V - I V <sub>7</sub> - IV FIV V - I V - I - IV F IV V - VI V <sub>7</sub> - I IV <sup>1</sup> V V <sub>7</sub> I
「紅葉」 尋常小學唱歌	4分4拍子へ長調 I V <sub>7</sub> I - I V <sub>7</sub> I V <sub>7</sub> I V <sub>7</sub> I - I V <sub>7</sub> I V <sub>7</sub> I F - IV F I F (V <sup>1</sup> ) IV V - F - (F <sup>2</sup> ) V <sub>7</sub> I - - FV <sub>7</sub> I
新訂尋常小學唱歌	4分4拍子へ長調 I FVI IV - V F - VV <sup>1</sup> IV - I FVI IV V <sup>1</sup> IV F - II <sup>1</sup> F <sup>2</sup> V I I - IV <sup>2</sup> I - F V - I - II <sup>1</sup> V <sub>7</sub> V IV <sup>1</sup> I III <sup>1</sup> V <sub>7</sub> - V F - FV <sub>7</sub> I

第三學年「春が来た」

尋常小學唱歌

4分4拍子ハ長調 I - IV I - IV<sup>2</sup> I<sup>2</sup> - V - I - - IV<sup>2</sup> - I<sup>2</sup> - V<sub>7</sub> - I -

新訂尋常小學唱歌

4分4拍子ハ長調 I - I - I -  $\check{V}_3$  - V - I - IV<sup>2</sup> - I<sup>2</sup> - V<sub>7</sub> - I -

「茶摘」

尋常小學唱歌

4分4拍子ト長調 I - I - I - V<sup>2</sup> I<sup>2</sup> I V<sub>7</sub>I<sup>2</sup>V I - I<sup>2</sup> - V I I<sup>2</sup> - IV - V

I - I - I - V<sup>2</sup>I<sup>2</sup> I V<sub>7</sub>I<sup>2</sup>V I - V<sub>7</sub> $\check{V}_3$ VIIV I<sup>2</sup> - V<sub>7</sub> - I

新訂尋常小學唱歌

4分4拍子ト長調 I - V I - I - V I<sup>2</sup>V I - V I -  $\check{V}_3$ V I - II<sup>2</sup>IV<sup>2</sup> - I

I - V I - I - V I<sup>2</sup>V I - II<sup>2</sup> - I IVI - V<sub>7</sub> - I - ]

「蟲のこゑ」

尋常小學唱歌

4分2拍子ニ長調 I IV<sup>2</sup> I - IV<sup>2</sup>IV I - I<sup>2</sup> - I<sup>2</sup> - I IV<sup>2</sup>I - IV<sup>2</sup>IV I -

I<sup>2</sup> - I<sup>2</sup> - I<sup>2</sup> IV I<sup>2</sup> I VI  $\check{V}_3$  I I $\check{V}_3$  I VII<sub>3</sub> $\check{V}_3$ V I

新訂尋常小學唱歌

4分2拍子ニ長調 I IVV I IVII<sub>7</sub>V - IVI<sup>2</sup>VI<sup>2</sup>V<sub>7</sub> - I IVV I IV - V -

IVI<sup>2</sup>VI<sup>2</sup>V<sub>7</sub> - IVI<sup>2</sup>V<sub>7</sub> - I I (III<sub>7</sub>) IVV - I - VVII<sup>2</sup> - VI<sub>7</sub> - IV - I<sup>2</sup>VI

第四學年「春の小川」

尋常小學唱歌

4分の4 ハ長調 I - ( $\check{V}_3$ ) I - VI<sup>2</sup>IV<sup>2</sup>I - I (II<sub>7</sub>) I I - ( $\check{V}_3$ ) I - VI<sup>2</sup>IV<sup>2</sup>IV<sub>7</sub> I

V - V<sub>7</sub>I IV - I IV<sup>2</sup>VI $\check{V}_3$ IV<sup>2</sup>VI I - ( $\check{V}_3$ ) I - IVI<sup>2</sup>IV<sub>7</sub> I

新訂尋常小學唱歌

4分4拍子ハ長調 I - I - I<sub>6</sub> - I - I - I - I<sub>6</sub> - V I ]

V<sup>2</sup> - VI - I<sup>2</sup> - I - , [I - I - I - ] V I

第五學年「鯉のぼり」

尋常小學唱歌

4分4拍子ヘ長調 I - I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I V<sub>7</sub>I I - I<sup>2</sup>V - I - I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I V<sub>7</sub>I I - I<sup>2</sup>IV<sup>2</sup> - I

I - V<sub>7</sub>VIIV - I<sup>2</sup>-V<sub>7</sub>I  $\check{V}_3$ V<sub>7</sub>V<sub>7</sub> I V<sub>7</sub>I I<sup>2</sup> - V<sub>7</sub>I -

新訂尋常小學唱歌

4分4拍子ヘ長調 I - I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I<sup>2</sup> I - V - I - I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I<sup>2</sup> I -  $\check{V}_3$ V -

I<sup>2</sup> -  $\check{V}$  - VI - IV - I - VIIV I - IV - II<sup>2</sup>I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I<sup>2</sup> I<sup>2</sup> - V<sub>7</sub> - I -

「冬景色」

尋常小學唱歌

4分3拍子ト長調 I - I<sup>2</sup>V<sup>2</sup> - I V - - V - V<sup>2</sup>I - I V<sub>7</sub>I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I -

V<sub>7</sub> V<sub>7</sub>I - I<sup>2</sup> IV<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I V - I - I - I V<sub>7</sub>I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I -

新訂尋常小學唱歌

4分3拍子ト長調 I - VI<sub>7</sub>V - (III<sup>2</sup>) V<sup>2</sup> $\check{V}_3$ V<sub>7</sub>I<sup>2</sup> - IV - V<sup>2</sup> $\check{V}_3$ VIIV<sup>2</sup> - V<sub>7</sub>I - I

, [V<sup>2</sup> - I - I<sup>2</sup>II - II<sup>2</sup>] V - I V<sup>2</sup>VI<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I II<sup>2</sup> - V<sub>7</sub>I -

第六學年「朧月夜」

尋常小學唱歌

4分3拍子ニ長調 I<sup>2</sup>V I I<sup>2</sup> - IV<sup>2</sup>VI I<sup>2</sup>V I - I - I - I<sup>2</sup>IV - I<sup>2</sup>IVIV<sub>7</sub>V<sub>7</sub>I -

I I<sup>2</sup> - IVIV<sup>2</sup>I - I<sup>2</sup> IV<sup>2</sup>V - I - (II<sub>7</sub>) I<sup>2</sup>IV<sup>2</sup>IV<sub>7</sub>V<sub>7</sub>I -

新訂尋常小學唱歌

4分3拍子ニ長調 I V I I<sup>2</sup> - IV<sup>2</sup>II<sup>2</sup>I V I - I V<sub>7</sub>I V<sub>7</sub>I I<sup>2</sup>IV<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I -

I VIIV<sub>7</sub> $\check{V}_3$ V I I<sup>2</sup>II<sup>2</sup>V - I<sup>2</sup>I - (II<sub>7</sub>) I<sup>2</sup>IV<sup>2</sup>IV<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I -

「我は海の子」

尋常小學唱歌

4分4拍子変ホ長調 I - I - V I - IV<sup>2</sup>I - IV<sup>2</sup> -  $\check{V}_7$ I - ] II<sup>2</sup> - I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I

II<sup>2</sup> - V I - I<sup>2</sup> IVVI I<sub>7</sub> - I  $\check{V}_7$ I IV<sup>2</sup>V<sub>7</sub>VI - I - II<sub>7</sub>I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I

新訂尋常小學唱歌

4分4拍子変ホ長調 I I<sup>2</sup>VV<sub>7</sub>I<sup>2</sup>V<sup>2</sup>IVIV<sup>2</sup>II<sup>2</sup>VI - IV<sup>2</sup>IV $\check{V}_7$ II<sub>7</sub>I<sup>2</sup> II<sub>7</sub>I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I -

V $\check{V}_7$ V<sup>2</sup>V<sup>2</sup>V I (II<sub>7</sub>)I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>VI<sup>2</sup>VI V<sup>2</sup> $\check{V}_7$ V - IV<sup>2</sup>IV $\check{V}_7$ II<sub>7</sub>I<sup>2</sup>I II<sub>7</sub>I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I -

「故郷」

尋常小學唱歌

4分3拍子ト長調 I (II<sub>7</sub>) VI V - I $\check{V}_7$ IV<sup>2</sup> IV<sup>2</sup>I<sup>2</sup>IV I - II<sub>7</sub>VV<sub>7</sub>I

V<sub>7</sub> - I - V<sub>7</sub> - I - I<sup>2</sup> - I - II<sup>2</sup> - V<sub>7</sub>I -

新訂尋常小學唱歌

4分3拍子ト長調 I - V - I - (II<sub>7</sub>) I<sup>2</sup> - I IV I<sup>2</sup> $\check{V}_7$ I V<sub>7</sub> I<sup>2</sup>II<sup>2</sup>IV<sub>7</sub>I -

V - V<sub>7</sub>I - V<sub>7</sub> - II<sup>2</sup>I<sup>2</sup>V<sub>7</sub>I V<sub>7</sub>I V<sup>2</sup>I<sup>2</sup>V<sup>2</sup>I IV<sup>2</sup>IV<sup>2</sup> I -

分析結果

尋常小學唱歌と新訂尋常小學唱歌伴奏楽譜の差異について、楽譜1～7を検証する。

1) 休符、及び付点休符の使用について

尋常小學唱歌「かたつむり」の右手部分、「春が来た」の左手部分、「蟲のこゑ」の4小節目に休符、及び付点休符が使用されているが、いずれも新訂尋常小學唱歌では、使用されていない。

2) 保続音<sup>11)</sup>の使用について

尋常小學唱歌「かたつむり」「茶摘」「春の小川」の左手部分に保続音が使用されている。新訂尋常小學唱歌でも、保続音は使用されているが、左手に動きを持たしており、より鍵盤音楽に適している。<sup>12)</sup>

3) 分散和音<sup>13)</sup>の使用について

尋常小學唱歌「かたつむり」「春が来た」「茶摘」「春の小川」の左手部分には、使用されていない分散和音型が、新訂尋常小學唱歌では多く見られる。

4) バス旋律線について

尋常小學唱歌「紅葉」「我は海の子」のバス旋律線は、動きがシンプルであるが、新訂尋常小學唱歌では、バス旋律が4分音符ごとに変化している。

次に尋常小學唱歌と新訂尋常小學唱歌13曲の和声分析結果について検証する。

1) Iの和音<sup>14)</sup>の使用について

全体として、尋常小學唱歌の方が新訂尋常唱歌より、Iの和音が使用される頻度が高い。「日の丸の歌」59.3%、53.1%「かたつむり」66.6%、70.8%「富士山」54.6%、43.8%「紅葉」67.1%、50%「春が来た」62.5%、62.5%「茶摘」70.3%、70.3%「蟲のこゑ」68.8%、33.7%「春の小川」62.5%、68.7%「鯉のぼり」64%、60.9%「冬景色」72.5%、35.4%「朧月夜」60.4%、60.4%「我は海の子」64%、43.7%「故郷」56.3%、50% 特に第一転回形が多く見られる。

## 2) 終止形について

1) の結果と関連するが、各旋律線の終わりに尋常小學唱歌は、I の和音が使用されているが、新訂では V の和音が使用され半終止が明確になっている。「蟲のこゑ」の 4 小節目、「鯉のぼり」の 8 小節目、「富士山」の 12 小節目である。

3) 借用和音<sup>15)</sup>の使用について

尋常小學唱歌「茶摘」VI 度調の和音が 1 回、「蟲のこゑ」III 度調の和音が 1 回、「春の小川」III 度調の和音が 2 回、「鯉のぼり」V 度調の和音が 1 回、「我は海の子」III 度調の和音が 1 回、「故郷」IV 度調の和音が 1 回の合計 7 回である。

新訂尋常小學唱歌：「富士山」III 度調の和音が 1 回、IV 度調の和音が 1 回、「紅葉」V 度調の和音が 3 回、「茶摘」V 度調の和音が 1 回、「鯉のぼり」V 度調の和音が 1 回、VI 度調の和音が 1 回、「冬景色」IV 度調の和音が 1 回、VI 度調の和音が 1 回、「朧月夜」V 度調の和音が 1 回、「我は海の子」V 度調の和音が 2 回の合計 13 回である。

## 4) 和声法の禁則について

連続 5 度 8 度並達 5 度 8 度が、少々露見した。<sup>16)</sup> 尋常小學唱歌「日の丸」12 小節～13 小節：連続 5 度 尋常小學唱歌「春が来た」6 小節～7 小節：連続 8 度 尋常小學唱歌「冬景色」9 小節～10 小節：並達 8 度 新訂尋常小學唱歌「紅葉」1 小節～2 小節：並達 5 度

## まとめ

ここまで、『尋常小學唱歌 伴奏樂譜』と、『新訂尋常小學唱歌』の伴奏部分の違いを検証し、和声分析を行った。分析結果から、休符、保続音、分散和音の使用等、新訂尋常小學唱歌伴奏部分は、より鍵盤音楽的な音型と認識できる。また、借用和音や各種和音の使用頻度や禁則処理についても、より現実性が高いものになっている。しかしながら、『尋常小學唱歌』「春の小川」1 小節目の借用和音等は、偶成和音的<sup>17)</sup>な書方であり、高度な和声法の技術が見られる。また、1 度の第一転回形の使用や、弾力的な終止形のあり方など、『尋常小學唱歌 伴奏樂譜』の和声動向は、19 世紀ロマン派の作曲家が使用していたものを彷彿させる。そこには、明治時代に、和声法 対位法の知識や技術が、外国人教師ディットリヒから島崎赤太郎、そして福井直秋に受け継がれた経緯がうかがえる。<sup>18)</sup>

## 引用・参考文献

- 堀内敬三・井上武士編『日本唱歌集』pp.258-260, 岩波文庫 (1958)
- 小學唱歌教科書編纂日誌『東京藝術大学百年史東京音楽学校篇』第二卷 第 3 章 第 4 節 pp.750~783
- 前掲書 pp.751「～便宜上主任ヲ置クヘキ必要アリ依テ之ヲ島崎氏ニ託ス」
- 堀内敬三・井上武士編『日本唱歌集』pp.260～262, 岩波文庫 (1958)
- 赤井 励著『原典による近代唱歌集成一誕生・変遷・伝播一解説・論文・索引』pp.70～75, pp.210～215, ビクターエンターテイメント (2007)
- 北原白秋著「小学校唱歌々詞批判」(大正 10 年)『白秋全集』第 20 卷「詩文評論 6」pp.235~252, 岩波書店 (1986)
- 赤井 励著『原典による近代唱歌集成一誕生・変遷・伝播一解説・論文・索引』pp.210～215, ビクターエンターテイメント (2007)
- 『福井直秋伝』pp.79～83, 武蔵野音楽大学内 福井直秋伝記刊行会 (1969)
- 平沢博子著「ディットリヒとお雇い外国人音楽家たち」pp.4～13, キング・インターナショナル (2001)
- 各和音記号については、島岡譲他著『総合和声』音楽之友社 (1998) の方式を使用する。
- 前掲書 pp.244～250
- 大正から昭和にかけて鍵盤楽器の普及率が増加している。増井敬二著『データ・音楽・日本』18 戦前の日本楽器 KK の生産実績 pp.20, 東京音楽社 (昭和 55 年) ピアノは、大正 6 年 647 台が、昭和 7 年には、1,744 台に、オルガンは、3,331 台が、7,179 台になっている。
- 伴奏の和音「構成音」は、次々に分けて分散して奏される。島岡譲他著『総合和声』pp.256～263, 音楽之友社 (1998)
- 音階各音度を根音とする和音。前掲書 pp.18～22
- ある調において、他の調の和音を一時的に借用する。前掲書 pp.86～93
- 「進行に関する規則」前掲書 pp.40～43
- ある和音 X の構成音の揺れによって、X 内部に異なる和音形態 Y が偶然的に成立すること。前掲書 pp.229～244
- 赤井 励著『原典による近代唱歌集成一誕生・変遷・伝播一解説・論文・索引』pp.210～215, ビクターエンターテイメント (2007)